



FortiGateシリーズで 本社と125店舗を結ぶネットワークの セキュリティ強化を実現

全国に125店舗のステーキレストランを展開するフォルクスは、本社と店舗間のインターネットVPN構築において、フォーティネットの統合型セキュリティアプライアンス「FortiGateシリーズ」を採用した。店舗のアクセス回線をダイヤルアップによるISDNからADSLにリプレースするとともに、コストパフォーマンスにすぐれたFortiGateシリーズによって通信コストの削減を実現し、ネットワークセキュリティを大幅に強化した。

セキュリティ向上と コスト削減を目指して ネットワークを再構築

ステーキレストランのフォルクスは、1970年に大阪・中津に第1号店をオープンして以来、関東、近畿、中国、九州に店舗網を拡大している。また、ステーキレストラン以外にも食メニューを中心とした居酒屋や中華レストランへも業態を広げ、現在は125店舗を擁している。1972年に日本で初めてレストラン内にサラダバーを導入したほか、安価で良質なステーキを提供し、ファミリーレストラン形式になってから急激に店舗網を拡大した。

近年、国内でのBSE(牛海綿状脳症)発生や米国のBSE発生に伴う輸入禁止など、オーストラリア産牛肉を中心に使用し



フォルクス店舗運営本部営業企画課長、橋本隆氏は「FortiGateはファイアウォール、VPN、アンチウイルス機能を統合しているため、それぞれの機器を個別に導入するよりもコストを抑えることができた」と語る

てきた当社にとっても、厳しい経営環境に置かれている。しかし、そうした中において同社は、ステーキハウス業態に移行することで、2005年2月期の業績予想を上方修正するなど堅調な経営を行っている。

同社の主な事業所は、東京・新宿の本社事務所のほか、東京事務所、大阪事務所、福岡事務所の4拠点があり、これらはフレームリレーによるネットワークを構築している。一方、全国125か所の店舗とは、これまでISDNを使ったダイヤルアップ接続により本社事務所と接続されていた。というも以前の店舗との情報のやり取りは、各店舗のPOSデータ(売り上げデータ、会員制度の利用ポイントデータなど)を店舗に設置されたPCから本社のホストコンピュータに転送すること、また発注データを外部の情報センターに送信することが主な利用だったからである。POSデータは閉店後に1日1回送信するのみ、発注データも毎日決められた時間までに数回接続して送信するだけであり、常時接続よりダイヤルアップによる従量制のほうが通信のランニングコストが安くできたためだ。

ところが2000年に構築した店舗ネットワークも、こうしたデータ送信だけでなく、電子メールによる業務連絡などでも頻繁にネットワークを使用するようになり、接続回数・時間が増加するとともに、大容量のファイルのやり取りにISDNの帯域不足が問題になりつつあった。また、メール環境は各店舗からインターネットを経由していたため、2年前にウイルスの被害にあい、感染したすべてのPCからウイルスを駆

会社概要

会社名	株式会社フォルクス
本社	東京都新宿区愛住町5番地
設立	1970年7月1日
資本金	76億2,900万円
代表者	山口 伸昭(代表取締役)
従業員	正社員366名(メイト4,100名)
直営店舗	125店舗
事業内容	ステーキを中心とする料理および飲料の加工調理提供
株式上場	大証二部上場
URL	http://www.volks-steak.co.jp/

除・復旧するまで2か月半を要したという苦い経験もあった。さらにダイヤルアップ接続を切断できなくするスクリプトを送り込まれる攻撃も受け、従量制の通信料が従来では考えられないほど大幅に跳ね上がるという被害にもあった。

VPNによる安全な通信と ウイルス対策を 目的にFortiGateを選択

同社では新しいメニューを開発し、そのレシピや作り方を各店舗に通達する際、大幅なメニュー追加のときは映像も多用したデータをCD-ROMに格納して配布したり、印刷したドキュメントを配布したりするなどしていた。ところが電子メールが定着するとともに添付ファイルでそうした情報を送るようになると、ISDNのダイヤルアップでは帯域が不足するとともに従量制のネットワークでは通信コストが高騰するようになった。各店舗でPCを使用するのは店長クラスに限られ、かつ1日に数回の接続とはいえ、低価格化したブロードバン

ド常時接続と比較しても従量課金のメリットはなくなってきていた。また、ウイルス被害などもあり、「低価格になったブロードバンドアクセス回線の採用により通信コストを削減するとともに、ウイルス対策の強化、安全な通信を確立することを目的に、VPN(Virtual Private Network)による店舗網の再構築を行う(店舗営業本部営業企画部課長 橋本隆氏)に至ったわけである。

同社の案件に対して、数社からIP-VPNやインターネットVPNによるいくつかの提案があったが、機能性や安全性で優位であるIP-VPNはコスト的にメリットを見出せないため、インターネットVPNに絞って検討を重ねたという。そこでも回線コストと運用コスト、さらに使用するVPNルータの機能について比較検討した結果、VPN機器にフォーティネットの「FortiGateシリーズ」を使い、アクセス回線は基本的にADSLを、そして保守サービスを一括して受託する日本ビジネスコンピューター(JBCC)の提案を選択することになった。

選定は運用コストを含めたさまざまな角度から検討した結果であるが、ことVPN機器に関してはアンチウイルス機能、VPN機能、ファイアウォール機能などセキュリティ機能が統合され

ていることがFortiGateシリーズを採用した最大の要因だったという。

橋本氏は、「ウイルスの被害をこうむったことがネットワーク再構築の1つの要因だった。ゲートウェイでのウイルスチェックをVPN機器で実施できるFortiGateが、最も運用が容易であり、導入コストが安価であるという点が選定した最大の動機だ」と説明する。また、橋本氏が機器選定に関与でき、かつ保守サービスを委託するJBCCが機器をレンタルしてサービスを提供するという形態が実現できたことも決定の背景にある。

ちなみに、JBCCはFortiGateをセキュリティ機器としてレンタルし、運用・保守を行うセキュリティマネージメントサービスを「レンタル関所くん」という名称で展開している。

イントラネットや 新たな店舗システムへ 利用拡大

フォルクスが導入したFortiGateシリーズは、センター側にはVPNスループット80Mbpsの「FortiGate-400」、リモート側となる125店舗には同20Mbpsの「FortiGate-60」だ。各店舗のアクセス回線はADSL(一部、通信事情により光回線)、センター側のアクセス回線は異なるキャリアの光



125拠点の各店舗にはVPNスループット20Mbpsの「FortiGate-60」を導入している

回線を2系統引き込み、耐障害性を考慮。一方の回線ダウン時にはPPPoE(Point to Point Protocol over Ethernet)のセッション自動切り換えにより、5~30秒でフェールオーバーする。FortiGateシリーズはアンチウイルス、ファイアウォール、VPN、侵入検知/防御、コンテンツフィルタリングなどの機能を統合しているが、現在同社が使用しているのはファイアウォール、VPN、アンチウイルス機能である。

「ウイルス対策は、PC、ホスティング先のISP、そしてFortiGateの3段階で実施しているうえ、VPNによりデータの安全性も確保され、ネットワークのセキュリティは格段に向上したと自負している(橋本氏)とし、通信コストにおいても保守サービスを加えても約30%のコストダウンを実現したという。

現在、同社では店舗とのネットワークはPOSデータや発注データの送信、および電子メールに利用されているのみだが、今後はイントラネットによる情報発信に活用していく計画があるほか、タイムレコーダのデータをネットワーク経由で本社の勤怠管理システムと連携していくといった利用拡大を視野に入れているという。

(取材・文 増田克善)



センター側で稼働するVPNスループット80Mbpsの「FortiGate-400」。光回線を2系統引き込み、耐障害性を向上させている



フォーティネットジャパン株式会社
<http://www.fortinet.co.jp/>
東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル6F
TEL : 03-5549-1640
E-mail : info_jp@fortinet.com



図研ネットワークエイブ株式会社
<http://www.znw.co.jp/>
神奈川県横浜市港北区新横浜3-1-1
TEL : 045-473-6821
大阪府大阪市北区堂島1-6-20 堂島アバンザ7F
TEL : 06-6343-1145
E-mail : ft-info@znw.co.jp



日本ビジネスコンピューター株式会社
<http://www.jbcc.co.jp/>
東京都大田区蒲田5-37-1
ニッセイアロマスクエア15F
TEL : 03-5714-5144
E-mail : cv_mail@web.jbcc.co.jp